

Spring Seminar 2018

5th C+③テーブル 総評

ジャッジ：伊集院悠（法政大学 4 年）

【テーブルメンバーと順位】

- 1 位 水出（法政 3）
- 2 位 坂野（早稲田 3）
- 3 位 中屋敷（成蹊 2）
- 4 位 森（明治 2）
- 5 位 石崎（上智 2）
- 6 位 石井（東女 3）
- 7 位 杉野（立教 2）
- 8 位 高橋慎（明学 3）

【議論の流れ】

Narrow：OP ポートの際に坂野と水出が立候補し、主に坂野のストレス耐性についてのコンパリソンアイデアに対し Q がなされたものの、水出が OP として選出された。

Problem～Harm：問題なく議論は進んだ。

SOH：杉野により A/W は students が教育を受けていることと同義であり、m/s を感じている期間よりも good effect を感じる卒業後から死ぬまでの期間の方が長く、より重要だとして serious ではないといった反論が出された。これに対し、中屋敷が term の定義を変えたいのかという意見が寄せられたが、杉野の回答によりあくまでも stop discussion がゴールだということが確認された。そこで水出の「誰の v/p でより重要なのか」「students は C/P に対し恐怖を感じるのか否か」という質問により SOH が確認されてこの話は収束した。

Cause～ASQ 全体：問題なく議論は進んだ。

NFC：インタミ後の 22：45 から始まり、計 4 つの反論が出され NFC で議論が終了した。

森の反論）教育は students のためであり、C/P は教育手段の一つだとして room はあるが touch すべきでない。

これに対し、水出が森のアイデアをカンファメシ、コアが「C/P の禁止により（＝教育手段の減少）students のモラルの低下を引き起こし社会秩序の崩壊が生じること」であると確認された。次に、scolding でもモラルを教えることはできるから社会秩序の崩壊は確実に起こるかはわからないという水出の主張により DA の一つとして扱われることとなった。

石井の反論）SQ でもいくつかの teacher は教員免許を剥奪されており、教員不足のために教育の質が低下しているものの、ギリギリ SQ では教育の質が保たれている。よって、C/P の厳罰化による教員不足が加速すると教育の質が保てなくなるから touch すべきではない。

少々伝わりづらかったこの反論を vague word を詰めることにより上記の内容の反論であることが判明。そして、水出が①他の teacher が教員不足によって忙しくなることが問題なら DA②教育の質が落ちることが問題なら comparison で話しませんかといった提案をしたものの通らなかった。そこに坂野と水出が石井に対して claim を再確認したところ、最終的には add mandate が goal とわかり、talk later となった。

この反論では、石井のアイデアのアウトラインを理解することに時間がかかり、コアである部分の議論がなされなかったことが残念でした。理解に時間がかかってしまったがためにテーブルの雰囲気も早く前に進まなきゃといった風になってしまっていたので、そうならないためにも自分のアイデアをわかりやすく伝えるにはという部分にフォーカスしたプレパをするべきだと感じました。

石崎の反論）SQ でも C/P は徐々に減少しているため、わざわざ touch する必要はない。Evidence に桜ノ宮高校の体罰事件を用いて、この事件をきっかけに C/P をなくするという風潮ができたと主張した。

まず、evidence ではどこまで証明したいのかという Q がなされ、①SQ で C/P が減少していること②このままの流れで将来的にも C/P は減少する可能性があるということだと確認された。これに対して坂野により、石崎もオピニオンプレゼンターも C/P を減らしたいという direction は同一であるということが共有された。しかし水出により T/P されない未来では C/P が増加する可能性もあると主張され、なぜ keep SQ したいのかという Q がされた。石崎の回答ははわざわざ日本政府が助けなくても自動的に助かるから、だった。それに対し、T/P により TG を確実に迅速に救えると主張したものの、talk later の提案に石崎は乗らなかった。そこで possibility と possibility でどうやって結論を得るのかという疑問が石崎にぶつけられたところ、元の talk later の提案に乗り、この話は収束した。

中屋敷の反論）SQ で既に C/P の程度に応じた 4 つの刑罰があり、日本政府は C/P が

起こった背景も考慮するべきであるから keep SQ すべきで、AP で J/criteria がなくなるのは良くないという主張だった。

水出のなぜ適切な基準が必要なのかという Q に中屋敷は C/P の質（痛み、深刻さ）はそれぞれ異なるからと回答した。そこで何を主張したいのかを聞かれ、AP では students と teacher の関係性において公平性が失われる（v/p:BOE students > teacher）ということが問題であるということが判明した。これに対して坂野が unfair の定義を確認し、死刑制度の不公平さ（日本では拷問が許可されていないため 2 人殺害しても 4 人殺害しても刑罰は一緒）を用いて反論をしたが、その途中で時間が来て議論終了となった。

【順位の選定理由とコメント】

1 位 水出

どの話にも水出が主導となって話を進め、このテーブル内唯一の推進力として議論に貢献していたため 1 位とした。

タスクを用いての suggestion が多く、それだけでは提案に乗ってくれない場面も見られたので、タスク以外でのアプローチもできるようになると良いと感じました。特に、石崎の反論で「How we conclude this objection?」と丸投げしている時があったので、オピメ側とアーギュメンター側で話が膠着してしまった時の対処法を身に付けることができたならさらに良くなると思います。しかし、カンファメによる共通見解づくりと話をごちゃりそうになった瞬間の程よいパワーハンドリングは良かったと思います。アッセンも頑張ってください！

2 位 坂野

コンスタントな介入や反論の際オピニオンプレゼンター側としてのサポートを評価して 2 位とした。

3rd テーブルでも彼女のジャッジをしていたため、5thでのパフォーマンスを見て非常にもったいないと感じました。議論で中心の存在となって引っ張る実力はあるのに、誰かがメインで話しているとそこにうまく介入できていないように見えました。せっかく話し始めたのに、こういう質問あるので今の Q 終わったら質問します、といったことが何回かあったため、①介入のタイミングを見計らう②介入にリーズニングして、自分の話まで引っ張っていく小手先の技術を身に付けると良いと思いました！したら、グンと成績上がると思います。頑張ってください！

3 位 中屋敷

コンスタントな Q による介入と objection を出して議論を盛りあげたことを評価し 3 位とした。

2年生ながら積極的にカンファメやQをしていたのがすごく良かったです。ただ、上位2人との決定的な差は objection に対しての介入少なさなので、第三者介入ができるようになると幅が広がると思います。まだまだこれからなので、アッセン頑張ってください！

4位 森

Objection により議論を盛り上げたことを評価しこの順位とした。

ディスカッション前半では介入をしていたのに途中から介入が限定的になってしまっていたので、コンスタントに介入できるようになれると良いと思いました。Objection ではすんなりと流れてしまったので、あれ、いいのかな？て少し思いました。アッセン頑張ってください！

5位 石崎

Objection により議論を盛り上げたことを評価してこの順位とした。

月並みですが、Objection を出すときにはその話の終着点をしっかり考えてから出すべきだと思いました。直前の suggestion には乗らなかったのに「how we conclude?」と言われて流れていたのはそのせいかな、と思ったので。また、keep SQ したい、というリーズニングも弱かったので、考えられる反論に対する反論まで考えてみると良いと思いました。頑張ってください！

6位 石井

Objection により議論を盛り上げたことを評価してこの順位とした。

厳しいことを言うようですが、objection を出すときはみんなが理解しやすいロジック、話の仕方進め方を考えてくるのが最低限必要かなと感じました。Data と rsn of warrant が一見リンケージが見えないために、objection の理解に時間がかかってしまったので、間にもう一つロジックを追加して説明するかワードを変えると伝わりやすいと思います。もしくは、ストリームチャートを使って説明すると、話の流れや関係性が可視化されてわかりやすいと思います。頑張ってください！

7位 杉野

介入が限定的であったためこの順位とした。

8位 高橋

介入が限定的であったためこの順位とした。

皆さんお疲れ様でした！！！！

